

第61回

対談・高須敏美市長（2）

—女性の活躍と行方市

行方市SDGs推進アドバイザー・茨城大学教授 野田 真里

◆地域での女性活躍と市の取り組み

**野田** 地域社会において女性の活躍は、これまでも増して重視されていると承知しています。行方市における取り組みについて、教えてください。

**高須市長（以下、高須）** 市民の多様な意見を市政に反映するため、女性の活躍を推進しています。例えば、文化会館や図書館等の各種委員会の委員の4割を、女性とすることを目標としています。市職員の割合について言えば、女性が約4割、男性が約6割となっています。本市では、本年（令和8年）4月に「行方市特定事業主行動計画」を策定しました。これは、「女性活躍推進法」（※1）と「次世代法」（※2）に基づく施策であり、育児や介護を含む家庭生活と仕事の両立と女性職員の能力発揮による活躍の推進は、相互に関連するため、一体的に策定していま

す。女性職員の活躍に向けて、現状の分析に基づき、管理的地位への女性職員の登用、男性職員の育児参加の促進、管理的地位にある職員以外の時間外勤務の削減について、数値目標を設定して取り組んでいます。今後、地域や議会でも、女性の活躍が広がることを期待しています。

◆女性が安心して出産・子育てができる医療体制

**野田** 市長は、地域医療の充実を重視されていると承知しています。人口減少が進む中での女性活躍において、安心して出産や子育てができる体制が重要と思われるのですが、いかがでしょうか。

**高須** 本市の限られた医療資源をいかに有効活用していくか、特に病院機能を入院可能な状態に回復するかが重要となっています。市内では、麻生・玉造地区にはクリニックがありますが、北浦地区には

はありません。また、市内には、救急や入院、分娩に対応できるクリニックはありません。地域の中心核医療機関として、土浦協同病院なめがた地域医療センターがあり、1999年の病床を有しますが、現在休床中です。施設がありますので、救急・入院機能を有する病院として、再スタートできるように取り組みを進めています。

医療資源の活用として、本年5月からは、0歳から15歳の子どもを対象にオンライン医療相談を始めましたが、これをオンライン診療に拡充して、薬の処方ができるようになればと考えています。また、東関東自動車道水戸線が開通すれば、医療資源の活用にも、良い影響が期待されます。例えば、市外から医師に、日帰りや週に1泊二日来ていただく等も可能になるかと思っています。

◆農業と女性活躍

**野田** 最後に、行方市の重要な基幹産業である農業における女性活躍について、考えをお聞かせください。

**高須** 女性にとって魅力のある農業、女性の視点を生かした農業

を、SDGsの観点から推進できればと考えています。農業振興センターを生かし、気候変動にも対応できる新しい製品の開発や、有機肥料供給センターを活用し、循環型農業を推進していきます。こうした持続可能な農業の構築に向けて、ぜひ女性が活躍いただければと思います。

（※1）「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」  
（※2）「次世代育成支援対策推進法」

